

潮流

《一し二月のメモ》

活動メモ

自主刊行物・機関紙誌

雑誌論文・単行本

紹介・「アナキズム文学史」 秋山 清

構成・戸駒恒世

今年に入ってから、昨年9・16前後の動きの成果が徐々にあらわれはじめています。それは満足すべきほどではないにしても、

この軋み（共同行動、あるいは組織についての問題）にふれている。

限ない抗争が大衆的な社会運動にまで波及している現在、「アナキズム」の、そして

少なくとも昨年来の孤立・分散した全般的な衰退の傾向とは質を異にした或る流れの萌芽をはらんでいるとだけは言えるだろう

直接的な関連はないが、小川正夫「性とアナキズム」中の組織問題についての論文、隔月刊「リベロー」誌の江口幹「フランスのアナキズムグループ」等はその有力な参考となるだろう。

「自由連合」の真価がはつきりと問われようとしているという言い方は、必ずしも、
△意識過剰△とばかりは言いきれまい。

しかしそれに伴って、一定の軋みが随所に見えはじめたこともまたたしかなことだ。

ただ肝心な点は、これらの問題を現実の社会運動全般の状況の中で、「運動論」「

1・20 リベルテール・セミナー第3回
「自由連合、——われらの組織体

「リベルテール・セミナー」での△自由連合論▽への取り組みは、明らかにこの軋みを視座に据えていることを示している。他

「運動論」へとの運動」へどのようなようにして噛み合わせてゆくのかということであり、

1・24 大逆事件の真実を明らかにする会
（東京・雑誌会館）

にも、「黒光」紙の一連の論文、あるいは「黒色戦線」紙、「現代無政府主義運動」

この間の動きと主張を更に△深化・明確化▽の方向へと進めてゆくことが必要とされているだろう。

1・26 大逆事件講演会
「いわゆる大阪組について」向井

紙（関西の共同行動路線について）などが

新左翼の陣営で、中核・革マル両派の際

「詩に現われた無政府共産党事件

紙（関西の共同行動路線について）などが

新左翼の陣営で、中核・革マル両派の際

「詩に現われた無政府共産党事件

の断片を通じて」 寺島珠雄

(大阪・市立労働会館)

1、2月中に三人の人物の訃報が伝えられた。掲げて哀悼の意を表します。

自主刊行物・機関紙誌(一〜二月)

1月

2・10 建国記念日・靖国法案粉碎全東海集会

1月5日 宋世何・死去。宋氏は朝鮮人アナキストとして、戦前に鶏林荘・東興労働同盟で、戦後は「自由社会新聞」の発行人として朝鮮人アナキストの糾合をはかるなどの活動をされた。

黒色戦線 2号 発行・志向社

2・10 建国記念日・靖国法案粉碎全関西集会

1月17日 朴烈・死去 『一月一七、一八日朝の平壤放送は、一七日午前一時死去したと発表した。七七歳。朴氏は慶尙北道出身、日大在学中の一九二三年いわゆる、「朴烈事件」で投獄された。無期懲役で秋田刑務所に服役中終戦となり出獄、在日大韓民国居留民団々長などを経て、一九四九年五月帰国。一九五〇年六月二五日朝鮮戦争ばっ発の際北側に連行され、その後「在北平和統一推進協会」の会長となっていた』

「全同志に対する特別アピール」
「いわゆる内ゲバの止場に向けて」にし
がた浄土

2・10 クロポトキン記念講演会 共催

1月7日 黒光 8号 発行・黒光社

リベルテール 1月号 発行・リベルテールの会

2・10 リベルテールの会・黒色戦線社・日本アナキストクラブ

黒色救援 2号 発行・東京地区黒色救援会

2・11 東京地区交流集会

イオム 4号 発行・イオムの会

リベロー 13号 発行・リベロー社

2・11 (東京・現代思想社)

2月 黒光 9号

2・11 反紀元節——靖国——天皇制討論集会

「自由連合——我々の組織体」 小三木

2・11 (京都・竜大宮学舎)

「自由連合——われらの組織性について」(京都・日伊会館)

2・11 反天皇制討論集会

現代無政府主義運動 2号 発行・北柴隆

2・11 同新聞社

2・14 島津一郎・死去。島津氏は戦前黒色青年連盟員として、戦後は三多摩自由人連盟を結成し「自由人新聞」を発行された。また、日本アナキストクラブの中心的な会員として活動された。

2・16 (長野・県勤労福祉センター)

リベロー 14号 発行・リベロー社

2・16 リベルテール・セミナー第4回

一

2・16 「自由連合——われらの組織性について」(京都・日伊会館)

○ ○ ○ ○ ○

2・16

雑誌論文(一〜二月)

2・16

自然と政治——安藤昌益の自然弁証法

2・16

安永寿延(現代の眼)

2・16

2・16

2・16

2・16

ソヴェト国家とクロンシヨタット

藤本和貴夫（歴史と人物）

幸徳秋水と大杉栄―『平民社時代』の周辺

下 荒畑寒村・丸谷才一・山崎正和

（歴史と人物）

わがドン・キホーテたち

江口 幹（文芸展望 四）

天井としじみ 江口 幹（早稲田文学）

以上一月

中里介山―業としてのニヒリズム

秋山 清（現代の眼）

単行本（一〜二月）

性とアナキズム 小川正夫

小川正夫評論集刊行会

絶望の天使たち 松永伍一 芸術生活社

以上一月

思想史を歩く・上

朝日新聞社

幸徳秋水と大逆事件 なだいなだ

青踏の女 宮本 研

ぼくは戦場で闘った E・ロミリ

バクーニン著作集第五巻

連台主義・社会主義・神学主義 白水社

「アナキズム文学史」 秋山清著

400枚の労作である。同氏が表社から数年前出版された「アナキストの文学」を大正・昭和期のアナキズム文学運動により密着した形で、綿密な考証を加え、当時の論点を浮きぼりにしている。

同氏も書いているが、中心は主に大正期のアナキズム文学におかれている。しかし、アナキズム文学の通史のない現在、きわめて貴重な論文であることに変わりはないだろう。

とりわけ、大杉・荒畑らの「近代思想」とその周辺、青野季吉の「自然生長と目的意識」にはじまるアナ・ボル文学論争、アナキズム詩誌の評価などについては非常に深い論及を加えている。

アナキズムと文学との問題について感心のある方は是非一読されるべき重要な論文であるといえるだろう

「文芸展望」5号

筑摩書房刊 六八〇円

コミュニケーションヒロバ

彌栄之郷共同体の新しい試みが紹介されている。広島

に直販センターを設立する計画と彌栄村に第二の根拠地が得られたことです。一七号

「今、われわれにとつて前衛とは何か」他。

大阪市東成区玉津二丁目 東成玉津郵便局留 コミュニオン百人委員会

「歴史に学ぶ」とか「人
民に学ぶ」といったたぐ
いの言葉をてんで頭から

信じたことのない我々に対してなお人理的なVという言い方があるとすれば、対象化しなければならぬのは、我々に対して人理的なVにしか関係できない営為であるだろう。マルクス主義者に言う。国家制共同社会覆滅を射程とする我々こそコミュニストであり、コミュニズムとは既に我々のものであると。かくいう我々はボルシェヴィーキの前衛性を突破し、世界革命へ突出していく自己権力の組織化、党形成にむけて更に更に高く人関係の変革Vへの黒旗をかかげよう。（編集後記より）

福岡県飯塚市飯塚郵便局私書箱二八号

方法的アナキズム研究会